

（５）介護未経験者マッチング機能強化モデル事業実績報告について

介護未経験者マッチング強化モデル事業 報告書概要

第１章 | 事業概要

川口市の介護分野では人材不足が深刻化しており、専門的ケアを必要とする介護職員が多岐に渡る周辺業務を担う必要があるため、業務負担が課題となっている。

令和７年度介護未経験者マッチング機能強化モデル事業では、有償ボランティアマッチングサービス「スケッター」を活用し、介護未経験者でも参加可能な専門性不要の周辺業務を担う体制を整備することで、人材不足問題の解消や地域住民との接点強化を目的とした仕組みを構築した。

第２章 | 事業内容と実施体制

事業は「モデル構築」「事業者支援」「広報活動」「参加者募集」の４つの柱で展開。実施内容としては、業務整理を支援する研修会開催、SNS・チラシ・メルマガを活用した促進活動、個別相談・支援を通じたマッチングの成功促進が行われた。制度導入初期には職員調整や業務整理に時間がかかるケースもあったが、伴走支援により課題を解消した。

第３章 | 目標設定と実績

目標値（参加事業所数 50 か所、登録者数 800 名、マッチング数 1,000 件）に対する実績は高い達成率を示し、新しい制度の受容性が確認された。

	参加事業所数	登録者数	マッチング数
目標値	50 箇所	800 名	1,000 件
実績値	47 箇所 (94%)	684 名 (85%)	921 件 (92%)

第 4 章 | 参加者分析

参加者の大半 (81.4%) は介護未経験者であり、40 代~60 代の中高年層が中心。参加動機としては「社会貢献」が重要視され、スキマバイトとは異なる柔軟な参加形態を提示したことが多世代における広範な関心を喚起した。

1. 年代別分布

年代	人数	割合
10 代	10	1.5%
20 代	62	9.1%
30 代	70	10.2%
40 代	116	17.0%
50 代	203	29.7%
60 代	157	23.0%
70 代	55	8.0%
80 代	11	1.6%

2. 介護経験の有無

経験の有無	人数	割合
経験者	127	18.6%
未経験者	557	81.4%

第5章 | 応募状況と地域影響

応募行動はPM時間帯に集中し、市内活動が直近3ヶ月で75.9%に上昇。活動が地域内に集約される特性が確認され、地域包括ケア推進の側面が示唆された。

3. 活動時間帯分布

	早朝	AM	PM	夕方	指定なし	計
学生	0	18	6	5	1	30
主婦・主夫	0	68	230	4	1	303
会社員	11	29	49	4	4	97
パートタイム	1	58	93	1	3	156
公務員	11	3	15	1	0	30
自営業	1	5	79	5	1	91
団体職員	0	3	5	0	3	11
その他	2	178	165	39	1	385
未回答	1	14	47	5	0	67
計	27	376	689	64	14	1170

4. 市内の活動状況

<令和6年7月1日～令和8年1月31日>

川口市内の事業所で活動（川口市内スケッターと川口市内事業所の応募数）	776	56.8%
川口市外の事業所で活動（川口市内スケッターと川口市外事業所の応募数）	394	28.8%
川口市外から流入して活動（川口市外スケッターと川口市内事業所の応募数）	197	14.4%

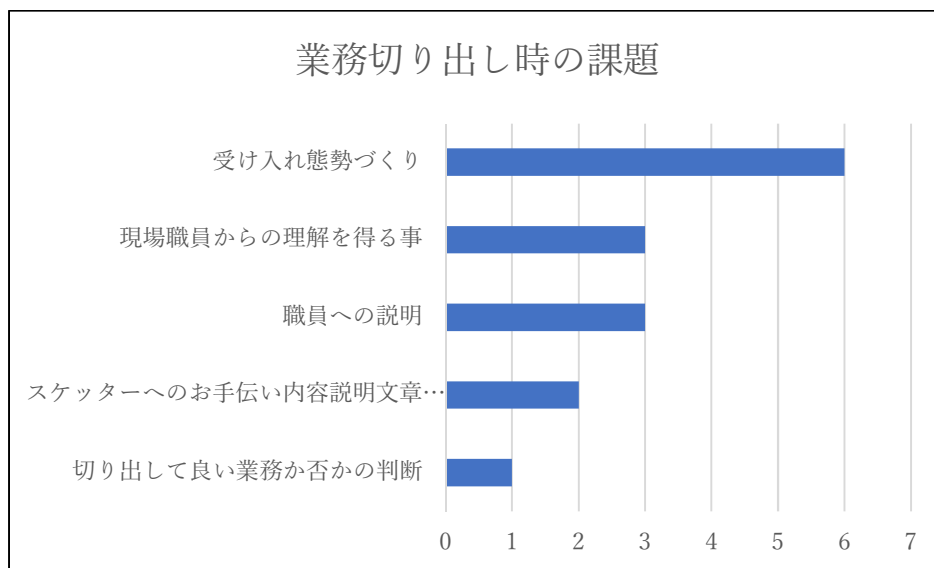
<令和7年11月1日～令和8年1月31日>

川口市内の事業所で活動（川口市内スケッターと川口市内事業所の応募数）	192	75.9%
川口市外の事業所で活動（川口市内スケッターと川口市外事業所の応募数）	38	15.0%
川口市外から流入して活動（川口市外スケッターと川口市内事業所の応募数）	23	9.1%

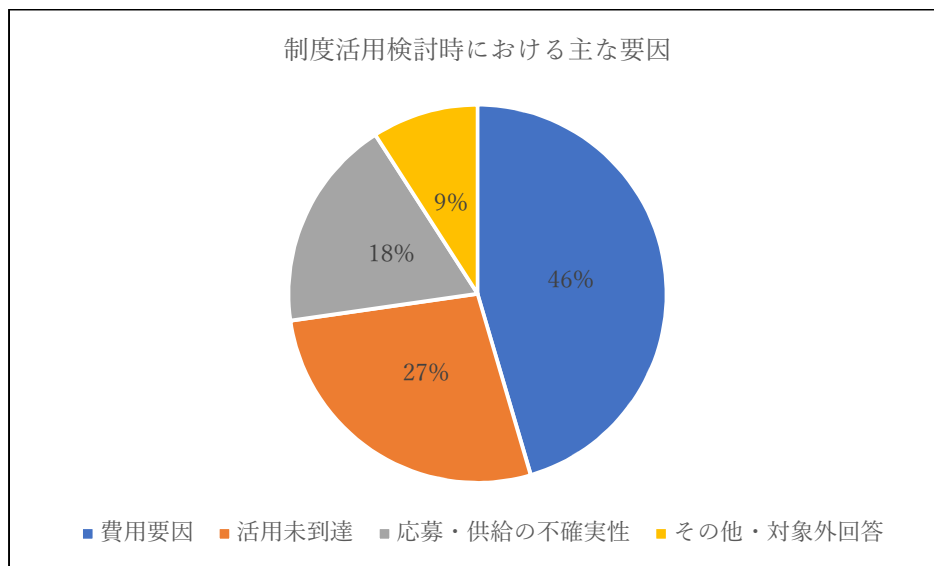
第6章 | 事業所評価と課題

事業所に対して行ったアンケートでは、業務負担軽減感や利用者満足度が確認された一方、運用課題として業務切り出しや職員調整の煩雑性が挙げられた。また、継続意向については、費用負担が活用意向に影響した。

5. 業務切り出し時の課題



6. 制度活用検討時における主な要因



第7章 | 研修・交流施策の効果

業務切り出し研修会及びスケッター交流会を開催し、制度理解を深める取組、事業所間の関係形成、事業所への支援等の取り組みを行った。

第8章 | 重点事例①

段階的支援により複数事業所で制度活用定着モデルが確認された。伴走支援を通じた業務整理、リピーター形成、法人内横展開により、持続可能な運用体制が実現。

また、内製化に成功した貴重な事例であり、担当者が法人内の別事業所へ横展開をし、複数事業所において活用が促進された。

第9章 | 重点事例②

スケッター活動がきっかけで職員採用に成功した事例が複数報告され、独自の接点形成経路として機能。短期活動から人材確保への波及効果が期待される。

第10章 | 総括

本事業は、

①介護未経験層との接点形成

②周辺業務を起点とした柔軟な人材確保経路の創出

③地域住民参加型の支援モデル

④事業所の運営支援手段

として、単なる人材確保施策ではなく、地域社会と介護現場を接続する政策モデルである可能性が示された。

制度定着には理解促進、案件具体化支援、費用構造の見直しなどが課題。柔軟な参加動線により未経験層と地域福祉が接続される基盤形成が期待される。

令和 8 年 3 月 18 日に実施した部会における意見・評価

【意見】

市民への周知がまだ足りない印象。川口市は町内会活動が活発なので、回覧板等での周知も検討してほしい。

中学生の職場体験などで、早い段階から介護現場に触れる機会を作ってはどうか。

現場の職員が「誰に何を頼むか」を管理する余裕がなく、導入を見送った経緯がある。専任の担当者がいないと、介護現場での受け入れは難しい側面がある。

現在、特養などの現場は深刻な人手不足で外国人に頼っている。スケッターがうまく機能すれば良いが、現時点では「今すぐ働ける有資格者」を求めて民間アプリ（カイケク等）を活用しているのが実情。

【評価】

スケッターは「即戦力の正社員」を求める現場のニーズとは少し乖離がある。しかし、レクリエーション等で介護の入口として興味を持ってもらい、5年、10年かけて資格取得や入職に繋げる「サポーター」としての価値はある。

即戦力を求める「タイミー」等の他アプリと比べ、スケッターは「社会貢献」を軸とした層が集まるのが特徴。介護への理解者を増やすという意味で意義がある。